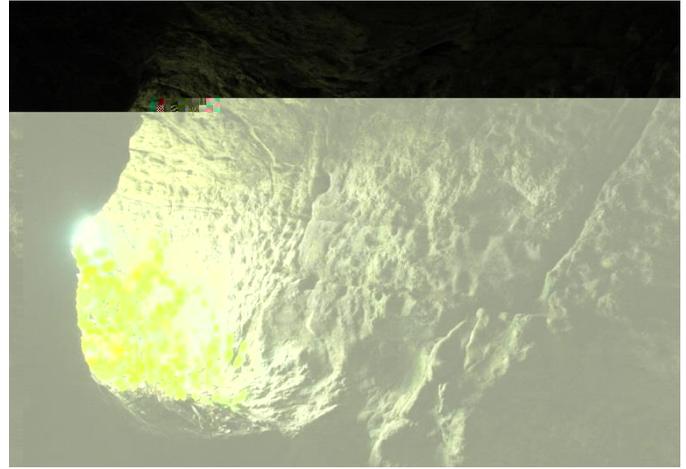


1327年夢窓国師によって開山。1314年初めて多治見の永保寺に修行の場としての庭園を造ってから13年を経過している。西芳寺と天龍寺の龍門瀑の庭が出来たのが1339年であるから、それよりも12年前である。彼の代表的な庭園のほぼ中間地点での道場創りである。鎌倉には、かの蘭溪道隆が建長寺を1253年に始めて作った禅の庭がある。瑞泉寺の庭はそれ以来74年後である。

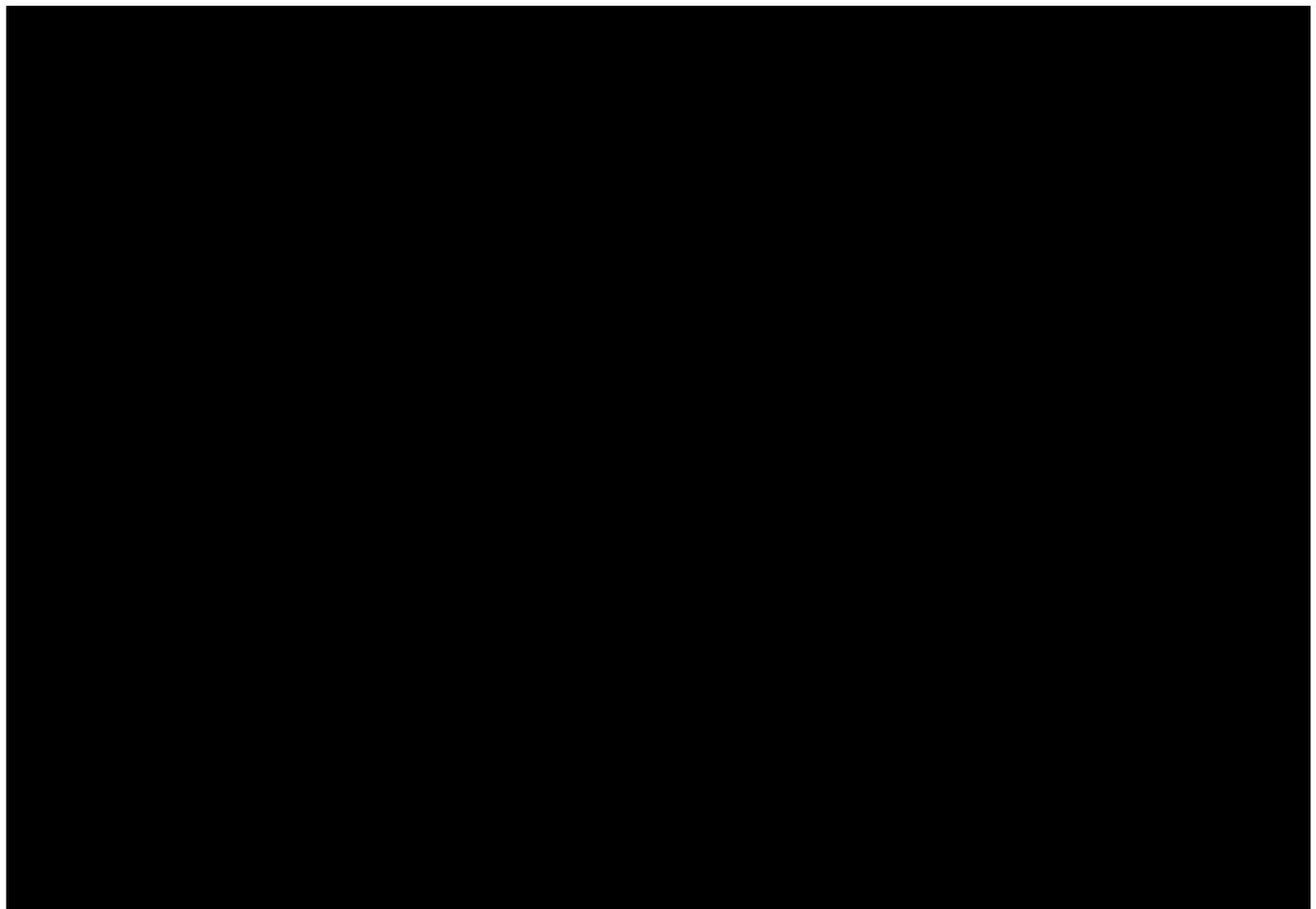
この洞窟から十八曲たどると山頂に至る。頂上にある**徧界一覽亭**からは富士山、相模湾などが望め清々しい気持ちになる(但し普段は入山できない)。このような景色は永保寺の景色であるし、瑞泉寺の12年後に作られる西芳寺の向上関から通宵路(つうしょうろ)を通り、頂上の縮遠亭から見る景色でもある。夢想国師が悟りの場として自然の風景を重要視していることが分かる。当寺の庭は現在我々が思い浮かべる庭ではなく、修行の道場である。凝灰岩の岩盤を穿って水月観の道場として天女洞、坐禅窟として**葆光窟(ほこうくつ)**、月を写す池を作った。現在の庭のように観賞のためではない。しかし岩盤を穿って出来たその造形は我々に真摯な修行の厳しさを連想させるに十分である。



葆光窟(ほこうくつ)なる坐禅窟

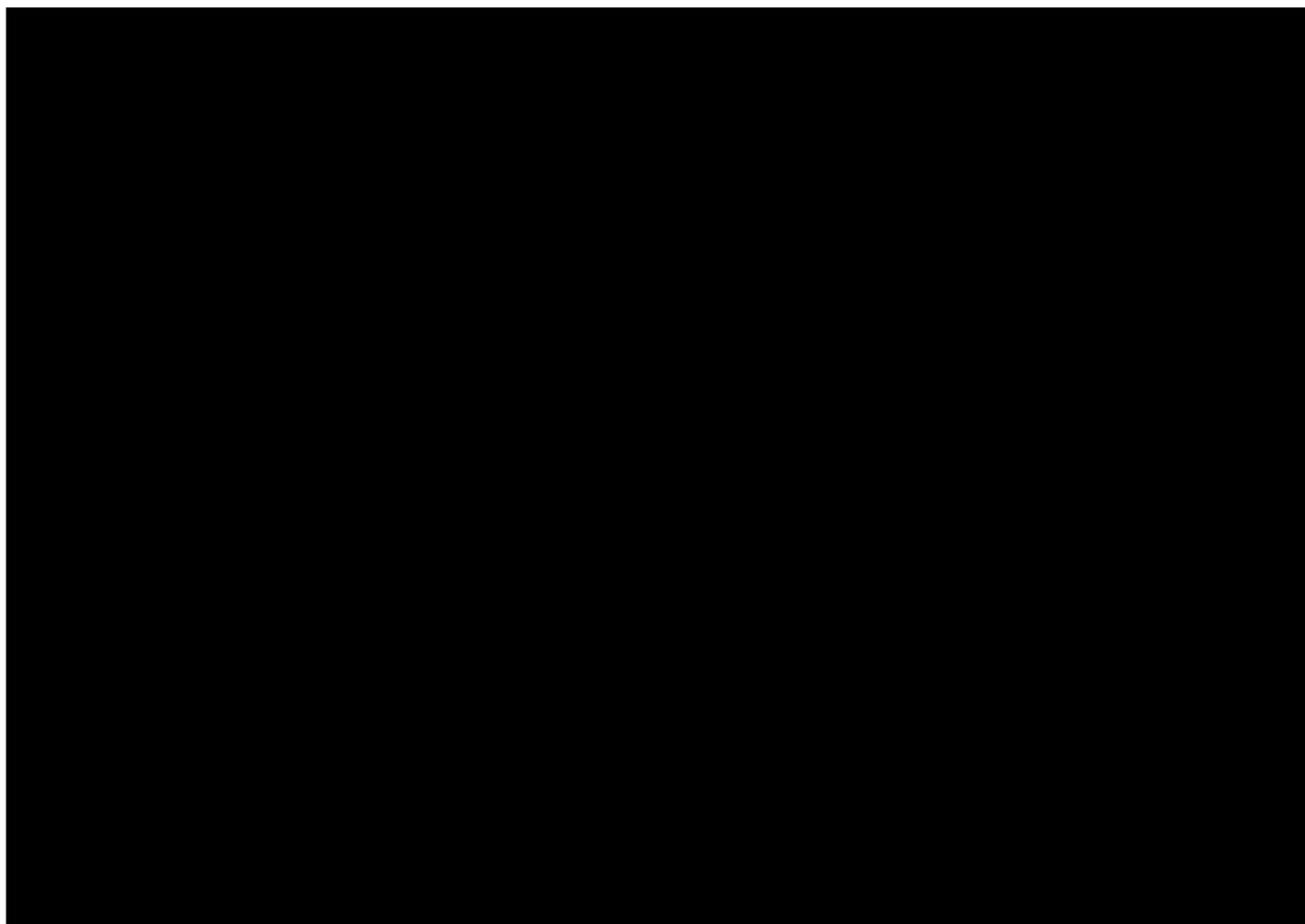


葆光窟の中より明かり取りの景色



水月観の道場である天女洞と岩盤を穿った池(貯清池)があり、水流を辿ると水分石と滝がある(写真右側)

上記の天女洞中から早朝の本堂を見望む



夜明け前の富士。夢窓疎石は暗いうちから偏界一覽亭へ向かい、大地の鼓動を感じていたのではないかと。

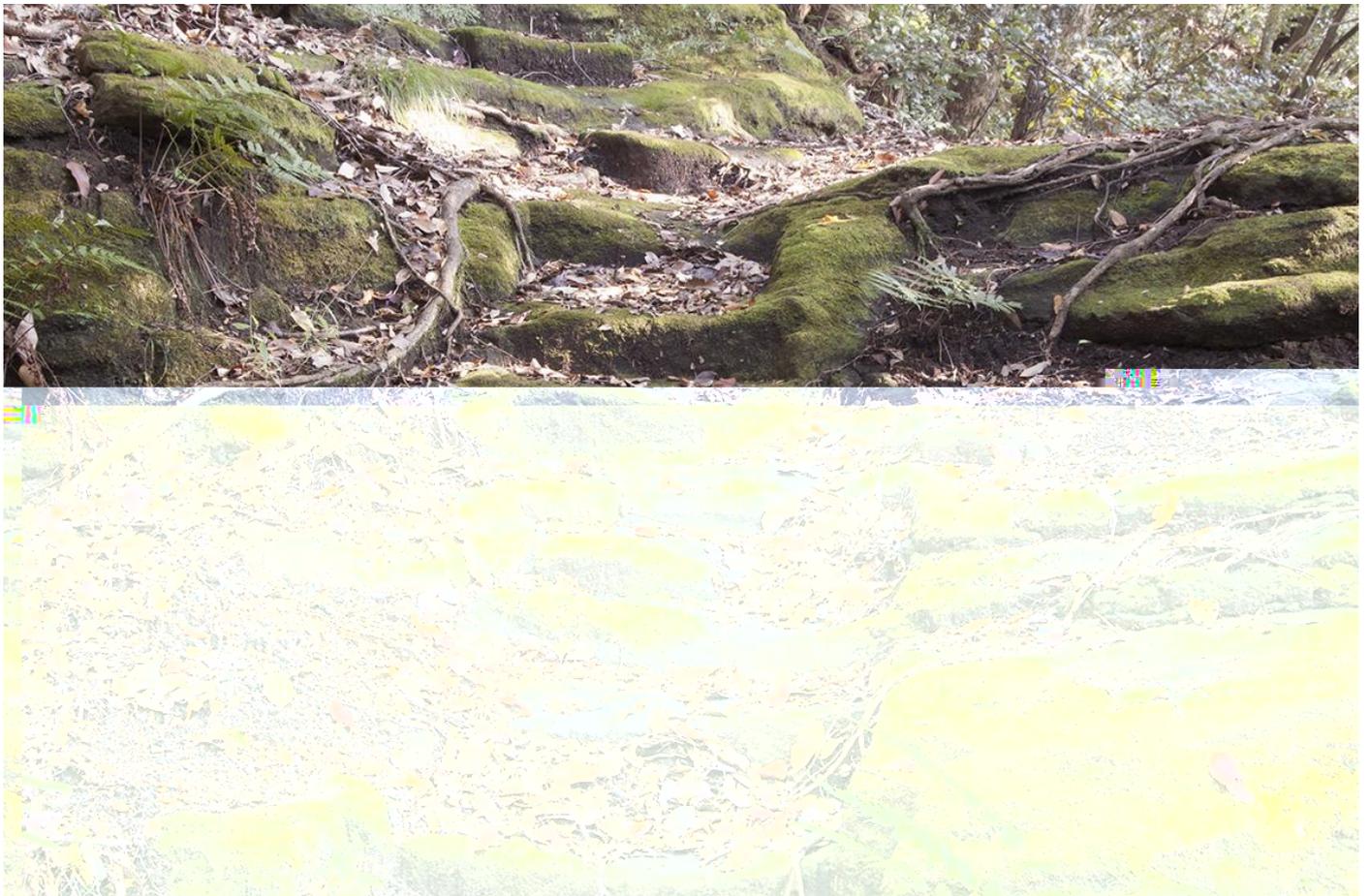


徧界一覽亭より夜明けの富士山を望む



陽が出ると富士山は端正な姿になる。

偏界一覽亭への道は九十九曲りの険しい道。この物語は西芳寺の向上関から縮音亭への通宵路を髣髴とさせる。



岩盤を鑿で穿った階段だ



偏界一覽亭への道から天女洞の前池を振り返る。